

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6 年 7 月 29 日 更新

事務事業名		スポーツイベント開催事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	3	教育の健康			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	牧野 淳一
	施策	11	生涯スポーツの推進			所属課	生涯学習課	担当者名	松山 美咲
	施策の柱	40	スポーツの啓発と参加機会の提供			所属班	スポーツ振興班	(内線)	1508
予算科目		会計一般	款 10	項 6	目 1	事業連番 10772	根拠法令	スポーツ基本法	
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	スポーツ推進委員主催として、6月に各区対抗ニュースポーツ大会、10月にスポーツフェスティバル、翌1月にカントリーマラソン大会、3月に春ウォークラリー大会を開催。
【業務の流れ】	◆年4回実施するイベント開催まで 各大会部会にて大会概要について検討→推進委員会定例会にて最終決定→回覧・各戸配布・ホームページ・広報にて市民への参加呼びかけ→備品の準備→会場の準備→大会の開催→片付け→推進委員会にて振り返りと反省
【主な予算費目】	時間外勤務手当、休日勤務手当、報償費、消耗品費、役務費、燃料費、印刷製本費、委託料、使用料および賃借料
【意見や要望】	◆スポーツフェスティバル ・共催された体育協会種目協会からは、開催場所が無料になる、広報等を市が行ってくれるなどメリットが大きいという意見がある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO) 【目的】市民が気軽にスポーツに取り組むことができる環境づくりを行う。 【内容】年4回スポーツイベントを開催する。 【実績】・6月10日:各区対抗ニュースポーツ大会(29区、355名参加)・10月14日:スポーツフェスティバル(206名参加)・1月6日:カントリーマラソン大会(366名参加)・3月30日:春ウォークラリー大会(60名参加)を実施した。 【成果】事故なく各イベントを開催することができ、多くの市民に参加いただいた。市民のスポーツへの意識向上に寄与することができた。		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) ・6月に各区対抗ニュースポーツ大会、10月にスポーツフェスティバル、1月に健康カントリーマラソン大会、3月の春ウォークラリー大会開催を予定。10月のスポーツフェスティバルでは、体育の日を中心に市内の各種目協会等の主催での大会も実施。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 人	予算の主な増減の理由
→ ア: 参加者数	人	物価の上昇による需要費の増
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位) 人	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
・市民および市内在勤者	人	→ ア: 市民及び在勤者
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位) %	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
・市民、在勤者の健康増進、親睦融和を図る。	%	→ ア: 参加率
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
・市民の健康増進と親睦を目的としているので、できるだけ多くの市民が参加することが望ましいため。また、健康と親睦は数値化することができないため。		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込
① 活動指標	人	人	420	992	1,500	988	1,500	1,500	1,500	1,500
② 対象指標	人	人	63,841	64,453	65,500	64,576	65,311	66,650	68,409	69,457
③ 成果指標	%	%	0.6	1.5	2.4	1.5	2.4	2.4	2.4	2.4
投 入 費 用	財 源	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	239	228	510	190	510	700	700
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	680	1,062	1,575	1,075	1,642	1,300	1,300
	(A) 事業費計		千円	919	1,290	2,085	1,265	2,152	2,000	2,000
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正職員従事人数	人	5	5	5	5	5	5	5
人 件 費	延べ業務時間		時間	1,040	1,040	1,000	1,370	1,000	1,000	1,000
	(B) 人件費計		千円	4,066	3,958	3,984	4,989	3,984	3,984	3,984
	トータルコスト(A)+(B)		千円	4,985	5,248	6,069	6,254	6,136	5,984	5,984

事務事業名	スポーツイベント開催事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は 5 年度的事後評価、ただし複数年度事業は 5 年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5 年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【原因】 例年開催していた大会は予定通り開催できているが、周知不足により参加申し込みが少なかったと考えられる。
	② 6 年度目標達成見込み	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☒ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 各区への参加依頼を継続していく。また、共催種目大会については、期日が重ならないように早めに期日の決定を種目協会へ依頼する。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 共催種目協会の大会は、期日の調整を早めに行うことで参加者が増える可能性がある。市主催のフェスティバルは、毎年参加している区では参加者が増える傾向にある。まったく参加しない地区もあるが、それらの地区が参加するようになれば参加者が増加すると考えられるため、行政協力員会議での呼びかけも検討する。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 平成 27 年度から類似事業を統合し、事業を進めている。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 類似する他事例を統合し、必要経費の削減に努めた。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 類似する他事例を統合し、人件費削減に努めた。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 各種目団体で行われる大会についてはそれぞれ参加費を徴収されているが、自治会で参加する分については市民誰もが無料で参加できる大会となっており、公平・公正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 各種目団体の大会運営はそれぞれの団体に完全に移行しているが、各地区にスポーツイベントのリーダーができれば、役割の移行ができる。

3 評価結果の総括（CHECK）

開催時期である 10 月には多くの大会が予定され、場所の確保・各団体の調整が必要である。また、参加賞などの無駄がないように、早めの募集等が必要である。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要）																								
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												